

※解答はすべて解答用紙にマークすること。

一、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

深層心理学は、もともとノイローゼの治療という、きわめて実際的なことからおこってきた学問である。不眠の人、気持ちが悪さいで何もできない人、尖ったものを見ると恐ろしくてたまらない人、自殺したいという人、これらの人にどのように接してゆくか。

そのような日常的な生活の問題を考えることと、人間が動物に変身したり、空を飛んだり、魔女が出てきたりするような民話の世界とは、一見何の関係もないように見える。しかし、これらは密接に関連しており、深層心理学はその（ア）ソウセツのとき以来、民話に関心をもちつづけている。それはいったいどうしてだろうか。

民話のなかで、主人公はまったくの閉塞状況に追いこまれていることが多い。あるいは閉塞状況を打ち破るものとして期待されているときもある。ヘンゼルとグレーテルは魔女にとらえられているし、グリムの「蛙の王様」では、王女は蛙に結婚を迫られて困惑してしまっている。わが国の民話でも、山うばに食われそうになったり、（イ）ケイボにいじめられたりして、主人公は（ウ）キュウチに追いこまれた状況になっている。

これらはまったく荒唐無稽のように思えるが、①少し観点をかえてみると、ノイローゼの状態の人にびつたりすることが多い。母親の「食いもの」にされたり、母親に「とらえられ」たりしている子どもなど、たくさんいるのではなからうか。結婚の約束をうっかりしてしまった後で、相手が「蛙」のようにいやな奴であることに気づいて困っている人など、あんがいたくさんいるかもしれない。

民話を馬鹿らしいと思う人は、民話に出てくるような竜とか魔女とか、そんなものがないはずはないと言う。しかし、たとえば、尖端恐怖というノイローゼになっている人は、尖ったものが勝手に自分の目にささったりはしないことをよく知っている。そんなことは絶対ないとわかっていながら、尖ったものを見ると恐ろしくて身動きできなくなるのである。

②尖ったものは、その人にとって「竜」なのである。それではそれをどのようにして退治するか。それがすなわちノイローゼの治療であり、民話は、それに対するいろいろな解決策を与えてくれるのである。

「蛙の王様」では、蛙に迫られた王女はたまりかねて、蛙を壁にぶちあててしまう。そうすると、蛙が立派な王子に変身して、ハッピーエンドがおとずれる。王女が蛙をつかんで投げつけるとき、そこに決定的な変化が生じるのである。

③このような「決定的瞬間」は、われわれの人生において、誰もが有る程度、経験しているのではなからうか。あるいは、それがそれほどの「決定的瞬間」であることを、われわれは意識しないで行っているのだが、じつのところはそれだけの重みをもったものであることを、心の深層では感じとっているのではなからうか。

このように考えてみると、別にノイローゼであるとかないとかに關係なく、人間が生きてゆく上において体験する決定的瞬間を、われわれがはっきりとは意識していないときでさえ、民話はいきいきとそれを描いてくれていると言えないであらうか。子どもの誕生にまつわるいろいろな④「異常」な話は、われわれが子どもの誕生に対して抱く、大きい期待をうまく描いているように思われる。桃から生まれた桃太郎とか、竹のなかから光を発して現れたかぐや姫などの姿が、それを示してくれている。

このことは、また次のようにも考えられる。子どもの誕生は「新しい可能性の出現」と

も読みかえられる。われわれが新しい可能性に向かって挑戦しようとするとき、それは子どもの誕生として描きだすと、一番びつたりであると考えられる。

民話のなかの登場人物が平板であるということは、よく言われることである。しかし、これらの登場人物を一人一人の人間としてみるのではなく、そのすべてを、一人の人間の内界に(エ)セイキしている群像として見るほうが適切ではなからうか。つまり、桃太郎を一人の人として見るのではなく、おじいさんもおばあさんも鬼たちも、すべてが一人の人間の内界に住むものとして見るのであり、桃太郎は新しい決意の誕生として、鬼たちはそれを妨害するものとして、読みとることができるであろう。

「蛙の王様」の王女が蛙を壁にたたきつける瞬間は、したがって、ある内的な決意の瞬間をあらわすものであり、実際に蛙を一匹殺すことよりは、意味深い行為を告げているものと思われる。それは、あるいは、ある女性が何かを(オ)ホウキすることを決意したり、何かと対決することをやり抜いたりすることを意味しているかもしれない。このように考えてゆくと、一見、荒唐無稽に見える民話の世界が、われわれ人間の深層を描きだしていることに気づくのである。

日常の生活において、われわれがあまり意識することなく行っていることや、あるいは、一面的な認識によって行っていることに対して、民話はその深層にひそむ真実をわれわれに伝えてくれるのだ。

(河合隼雄『日本人とアイデンティティ』による)

〔問題 1〕5 傍線部(ア)と(オ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

〔問題 1〕

(ア) ソウセツ

a セツソウのない人
b ドクソウ的な作品
c ソウゴンな寺院
d ソウダイな眺め
e 文章のソウアン

〔問題 2〕

(イ) ケイボ

a 精力をケイチユウする
b 改善のケイキとなる
c 変わったケイレキの人
d 王位をケイシヨウする
e 侵入したケイセキ

〔問題 3〕

(ウ) キュウチ

a コンキュウした生活
b 不正のキュウダン
c 真相のキュウメイ
d 難民のキュウサイ
e 事件にゲンキュウする

〔問題 4〕

(エ) セイキ

a 新政党のケツセイ
b 同窓会はセイキヨウ
c コウセイに名を残す
d 全国大会をセイハする
e セイライの慌て者だ

〔問題 5〕

(オ) ホウキ

a 敵をホウイする
b 現代はホウシヨクの時代
c 根も葉もないことをホウゲンする
d テレビのホウドウ番組
e 品行ホウセイな人

〔問題 6〕 傍線部①「少し観点をかえてみると」とあるが、それはどうすることか。その説明として、最も適当なものを次の中から一つ選びなさい。

- a 非現実な現象がどんなに奇妙でも、必ず人を納得させる理由があると考えてみることに。
- b 表に現れた行動から類推できる心の様相を、そのまま受け止め一度疑ってみること。
- c 人間の行動に表れてくる心理を、類似の行動を検討することで明らかにしてみること。
- d ある現象の現実性にとらわれず、心の気づかれない深部と対応させてみることに。
- e 空想の世界だから無意味だと考えず、別の空想の世界と対照させて考えてみることに。

〔問題 7〕 傍線部②「尖ったものは、その人にとって『竜』なのである」とあるが、ここで「竜」はどのようなものか。その説明として、最も適当なものを次の中から一つ選びなさい。

- a 全ての人の心の深層に潜む恐怖心のことであり、ノイローゼの治療で取り除くべきもの。
- b 現実にはあり得ないとわかっていながらも、恐ろしくてたまらないもの。
- c 人が空想の中で勝手に上がった、現実世界には決して存在しないもの。
- d ノイローゼ状態の人にとって身動きがでなくなるほど恐ろしいもの。
- e 一見荒唐無稽ではあるが、実はノイローゼの治療に対してヒントを与えてくれるもの。

〔問題 8〕 傍線部③「このような『決定的瞬間』は」とあるが、その部分を境にして、本文の内容がどのように推移しているか。その説明として、最も適当なものを次の中から一つ選びなさい。

- a ある限定的な世界について論じてきたのを広げて、広く人間のさまざまな場面のことさらに普遍化している。
- b それまで述べてきたことをひとまず整理したうえで、その逆の場合に話題を切り替えていこうとしている。
- c その段階までの前半の結論を大きな根拠として、広く社会で信じられている常識的な考えを支持している。
- d 一般的な人たちの考え方を身近な例で拾い上げてきたあとで、その奥にある深刻な意味を述べようとしている。
- e 深層心理学の特色を述べたうえで、次にその治療的な価値を別の具体例を取り上げながら論じようとしている。

〔問題 9〕 傍線部④において、「異常」と表現した筆者の意図の説明として、最も適当なものを次の中から一つ選びなさい。

- a 「異常」という言葉を強調して特に注目させるため。
- b 「異常」という判断が他人の意見の引用であるため。
- c ある見方からの「異常」であることを感じ取らせるため。
- d 「異常」ではないことを「異常」だと述べていたため。
- e 筆者はあらゆる意味で「異常」ではないと思っているため。

二、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

多様な個性のあり方が賞揚される現代では、普遍的で画一的な物差しによってではなく、個々の場面で具体的な承認を周囲から受けることによって、自己の評価が定まることになりません。平たくいえば、そこでウケを狙えるか否かが、自己評価にあたって重要な判断材料となるのです。しかも、客観的な評価の物差しがそこに存在するわけではありませんから、相手がどのような反応を示すかは前もって予想しづらく、評価された結果を待って初めて判断されることとなります。¹

かつて、社会の側に安定した価値の物差しがあった時代には、時々場の空気や気分などによって、個々の評価が大きく揺らぐことはありませんでした。だから、^①周囲の人びとによる一時的な評価を過剰に気にかけてたり、それに翻弄されることも少なかったといえます。場合によっては、「我が道を進む」と孤高にふるまうことすらできました。社会の物差しを自らの内面に取り込み、それを自分の物差しとすることで、自己肯定感の安定した基盤を確保できたからです。また、そういった支配文化に違和感を覚えていた少年たちも、対抗文化の物差しを自らの内面に取り込み、それを自分の物差しとすることで、自己肯定感の安定した基盤を確保することができました。^②いずれにせよ、自分が属する文化の正当性に裏づけられたジャイロスコープ(回転儀)が自分の内部で作動していたので、それを支えに一人で立っていることも容易だったのです。^②

しかし、人びとの価値観が多元化し、多様な生き方が認められるようになった今日の社会では、高感度の対人リーダーをつねに作動させて、^③場の空気を敏感に読み取り、自分に対する周囲の反応を探っていくかなければ、自己肯定のための根拠を確認しづらくなっています。いわば内在化された「抽象的な他者」という普遍的な物差しが作用しなくなっているために、その代替として、身近にいる「具体的な他者」からの評価に^④依存するようになっていくのです。^③

今日の若い世代が、ケータイの「圏外」表示に強い不安を感じ、友だち関係から疎外されることを過度に恐怖するのは、このような理由によるところが大きいと思われます。身近な人間から受ける個別の評価が圧倒的な力を持ち、そのために人間関係の拘束力がかつてよりも大幅に強まっているのです。^④

(土井隆義『キャラ化する／される子どもたち』による)

(注) 1物差し——評価や判断の基準。

2ジャイロスコープ——姿勢の安定を保つための装置。

3ケータイの「圏外」表示に……筆者は本文に先立って、携帯電話の「圏外」を友人関係の圏外ととらえる若者の傾向を指摘している。

〔問題10〕 傍線部④「依存」の対義語を、次から選びなさい。

- a 独自 b 自立 c 依拠 d 孤独 e 自主

- 〔問題 11〕 傍線部①「周囲の人々による一時的な評価を過剰に気にかけてたり、それに翻弄されることも少なかった」とあるが、それはなぜか。最も適切なものを、次から選びなさい。
- a 社会の価値の物差しが揺るがないため、それに従って自分自身で自己を肯定することができたから。
- b 社会の価値の物差しに従って行動していれば、周囲から悪い評価を受けることはなかったから。
- c 社会の価値の物差しに対抗することで、自分だけの確固とした価値基準を獲得できていたから。
- d 社会の価値の物差しを自分のものとすることで、周囲の不安定な評価に左右されることがなかったから。
- e 社会の価値の物差しは絶対的な基準とはならないものの、それによって安心を得ることができたから。

- 〔問題 12〕 傍線部②「いずれにせよ」とは、ここでは、どのような場合とどのような場合のことか。最も適切なものを、次から選びなさい。
- a 社会に安定した価値の物差しがある場合とない場合。
- b 対抗的な文化の物差しを受け入れる場合と拒絶する場合。
- c その場の雰囲気によって、個々の評価が揺らぐ場合と揺らがない場合。
- d 「我が道を進む」と孤高にふるまえた場合とそうでない場合。
- e 社会で大勢を占める価値観を受け入れる場合と受け入れない場合。

- 〔問題 13〕 傍線部③とあるが、今日の社会においてこのような状況となったのは、なぜか。筆者の考えとして最も適切なものを、次から選びなさい。
- a 人々の生き方が多様化し、どのような生き方をめざすべきかわからなくなったから。
- b 客観的な評価の基準が失われ、自分で自分を評価することができなくなったから。
- c その場でウケをとることが、自己の肯定のために欠かせなくなったから。
- d 「抽象的な他者」という普遍的な基準を、自らの内面に取りこんでしまったから。
- e 価値観が多元化し、自己のふるまいに対する相手の反応が予想できなくなったから。

〔問題 14〕 次の〔 〕の文を本文中に入れるとすれば、〔 1 〕〔 4 〕の中でどこに入れるのが適当か。最も適当なものを次の中から一つ選びなさい。

すなわち、自己承認を得られるか否かは、その時になってみなければ分からないのです。

- a 〔 1 〕 b 〔 2 〕 c 〔 3 〕 d 〔 4 〕

三、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

北陸の旧家の離れで兄夫婦と暮らす充江のもとへ、東京から従兄の史郎が母(充江の叔母)を連れ、夜行列車で帰ってきた。叔母は、かつてこの家で暮らし、母親代わりとなって充江を育ててくれた人物で、十年前も前から癌を患いながら、自らの意志で医者にかかろうとはしない。史郎は充江に母親の世話を依頼していたのだった。

昼過ぎにいったん眼醒めて、清し汁とかき揚げの昼食に、叔母はほんのかたちばかり箸をつけただけだったが、史郎の方はおどろくほどよく食べて、そのあとは二人ともまた眠

ってしまった。まるで何日も眠っていないようだ、と充江は呆れ、ついで夜を徹して①ま
んじりともせずに車輪の音を聴いていたのだらう母子それぞれの思いを想像した。

夕方になって、叔母は、本当によく眠れてすっかりいい気持、と上機嫌で起きてきた。
ちやんと浴衣に着換えがえている。

昼前から※注1降りみ降らずみだった空が、日暮れ時になって再び晴れて、西陽を浴び
た※注2梧桐の葉が、さえざえとあかるんだ。

史郎もよう寝て……、と叔母は八畳をのぞき、もう起きないと、汽車に遅れますよ、と
声をかけた。その声を聞くまで、史郎が少なくとも今夜はここに泊ってゆくものと思ひ込
んでいた充江は、おどろくよりも腹立たしくなる。

風呂を浴び、充江の給仕で、叔母に見守られながら夕飯を慌ただしくかきこんで、史郎
は立ち上った。

「じゃあ、お母さん、くれぐれも充ちゃんに甘えて……」

② ええ、ええ、と叔母は笑っている。数時間の睡眠で瘠せた軀に変わりがあるはずはない
が、ちよつとふつくら見えるほどに、気分がよさそうだった。

その顔色が写ったように上機嫌の史郎を、充江は納屋門のところまで見送った。

③ わざとゆつくり歩く充江に歩調を合わせて、史郎は、やっぱり田舎はいいなあ、と④
眉を伸ばすような口調で言った。

「そら、煩うるさいのんは居るけど、何や底のところまで心強うなる、いうか……、これ一体、
何やる」

半ば自問するふうである。充江の方は、叔母や史郎の上機嫌とは反対に、とんだことを
自分は引き受けたのではないか、と恐怖を感じはじめている。今はあれほど気分のよさそ
うな顔をしてはいるが、もしも病状に急変があったら、医者を呼ぶ以外のことが自分で
きるはずもない。充江が口を開きかけると、それより先に史郎が声を出した。

「充ちゃん、こない言うたらへんやけど……もしかしたら、癌やないのかも知れんぜ。
ふつう進んだ癌いうたら、ものすごう痛がるいうやないか。疲れる、息苦しい、いうのは
言うても、痛い言うんは聞いたことない」

「……………」

医者にみせたら一遍に分ることや、と当然のことを言い出す気には、充江もなれず、唇
まで上った問いを封じられたかたちだった。

(木崎さと子『青桐』による)

(注) 1 降りみ降らずみ——降ったり降らなかったり。

2 梧桐——落葉高木、あおぎりのこと。この梧桐はかつて叔母が植え替え、大切にしていた木である。

〔問題 15〕 傍線部①「まんじりともせず」の意味として、最も適切なものを、次から選
びなさい。

- a まったく考え事もせず b 少しも眠ることなく c すっかり満足して
d 不満ばかりを募らせて e 懐かしさを噛みしめて

〔問題 16〕 傍線部②「ええ、ええ、と叔母は笑っている」とあるが、このときの叔母の心
情として、最も適切なものを、次から選びなさい。

- a 自分が年下の充江に甘えることなど、実際にはありえない、とおかしく思っている。
b 史郎が、自分のことを田舎に置いて東京に帰ってしまうことをさびしく思っている。
c 史郎が自分の身を思い、田舎に連れて来てくれたことに感謝し、うれしく思っている。
d 夜行列車に遅れるのではないかと、内心穏やかでなく、史郎を心配に思っている。
e 史郎が充江のことを昔のように「充ちゃん」と呼んだことを、懐かしく思っている。

〔問題 17〕 傍線部③について、このときの充江の心情として、最も適切なものを、次から選びなさい。

- a 史郎に久々の田舎のよさをじっくり味わってほしい。
- b 看病が負担であることを史郎にそれとなく伝えたい。
- c 叔母と史郎の親子を離れ離れにさせたくない。
- d 不安もあり、史郎ともう少し話しておきたい。
- e 看病を押しつける無責任な史郎を困らせた。

〔問題 18〕 傍線部④「眉を伸ばすような口調」とは、どのような「口調」だと考えられるか。最も適切なものを、次から選びなさい。

- a 気分の和らいだ安心した口調
- b 心の底からの感動を表した口調
- c 相手に有無を言わせない口調
- d 暗に相手への批判を含んだ口調
- e 不快感や心配が込められた口調

〔問題 19〕 本文での充江と史郎、叔母の説明として、最も適切なものを、次から選びなさい。

- a 充江に看護してもらうことになりすっかり上機嫌の叔母と、すべて充江にまかせておけばよいと考える史郎に対し、充江は二人の身勝手さに憤りを感じている。
- b 眠っているばかりで病状や今後の方針など、何一つ教えてくれない叔母と史郎に対し、今後一人ですべてを引き受けることになった充江は不満を抱いている。
- c 気分がよさそうな叔母や田舎はいいと上機嫌で今後を樂觀視する史郎と違って、充江は底しれぬ不安を抱いていて、すぐ帰京する史郎に腹立たしさも感じている。
- d 帰省中の車内でもまったく眠ることができなかった叔母と史郎とは違って、充江は人にとつての田舎の心強さを知っており、安心して眠っている。
- e 実は癌ではないかもしれない叔母を、医者診療をまたずに充江のもとに連れてきた史郎に対して、充江は不信感を払拭できずにいる。

四、文学史に関する次の問いに答えなさい。

〔問題 20〕 22〕 次の文章の [ア] [ウ] に入れるのに最も適切なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。(問題 20 [ア]・問題 21 [イ]・問題 22 [ウ])

軍医であった森鷗外は、ドイツに留学した経験をもとに、帰国後『 [ア] 』を
発表し、二葉亭四迷の『 [イ] 』とともに、近代小説の礎となった。また、医師
の生涯を描いた『 [ウ] 』は、鷗外の歴史小説の代表作である。

- a 阿部一族
- b 舞姫
- c 友情
- d 浮雲
- e 渋江抽斎

〔問題 23〕 宮沢賢治の詩集を、次の中から一つ選びなさい。

- a 山羊の歌
- b 月に吠える
- c 抒情小曲集
- d 海潮音
- e 春と修羅

〔問題 24〕 夏目漱石の作品を、次の中から一つ選びなさい。

- a 杜子春
- b 斜陽
- c 夢十夜
- d 金閣寺
- e 雪国

五、熟語と慣用句に関する次の問いに答えなさい。

〔問題 25〕「心得顔」の意味を、次の中から一つ選びなさい。

- a 何か企んでいそうな顔つき
- b 扱い慣れているという顔つき
- c いかにも善良そうな顔つき
- d 事情をわかっているという顔つき
- e 何となく意味ありげな顔つき

〔問題 26〕「役不足」の意味を、次の中から一つ選びなさい。

- a 力量に比べ、与えられた役目が不相応に軽すぎること。
- b 人が多すぎて、必要とされる役柄が足りていないこと。
- c 役人の人数が足りなくて、行政に支障が出ていること。
- d 思いがけない大金が手に入り、何を買ったらよいか迷うこと。
- e 与えられた責務をまっとうするには、能力が不足していること。

〔問題 27〕「傍目八目」の意味を、次の中から一つ選びなさい。

- a 先のことを考えすぎる
- b 実際にはよく見えない
- c 予測が大きく外れる
- d 第三者の方がよくわかる
- e 多くの人に配慮する

〔問題 28〕「年が若く将来性があること」を意味する故事成語を、次の中から一つ選びなさい。

- a 青雲の志
- b 邯鄲の夢
- c 春秋に富む
- d 胡蝶の夢
- e 螢雪の功

〔問題 29〕「いつまでも決まらない相談」を意味するものを、次の中から一つ選びなさい。

- a 小田原評定
- b 釈迦に説法
- c 士族の商法
- d 月夜に提灯
- e 朝令暮改

(無断転用禁止)

令和4年度 茨城県立つくば看護専門学校一般入学試験 国語解答

大問	番号	正解	配点	小計
一	1	b	2	30
	2	d	2	
	3	a	2	
	4	e	2	
	5	c	2	
	6	d	5	
	7	b	5	
	8	a	5	
	9	c	5	
二	10	b	3	25
	11	a	5	
	12	e	6	
	13	b	6	
	14	a	5	
三	15	b	3	25
	16	c	6	
	17	d	6	
	18	a	3	
	19	c	7	
四	20	b	2	10
	21	d	2	
	22	e	2	
	23	e	2	
	24	c	2	
五	25	d	2	10
	26	a	2	
	27	d	2	
	28	c	2	
	29	a	2	